

令和6年度 江戸川区立葛西第三中学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	よく学び、よく考える自主性のある中学生（自発）	目指す学校像 1 生徒が自ら考え、主体的に学び、確かな学力を身につけさせる学校 2 生徒の自尊感情を育むとともに、何事にも立ち向かっていく強い意志をもたせる学校 3 生徒一人一人に充実感・満足感を体感させ、何事にも率先して自主的・主体的に活動できる学校 目指す生徒像 1 自分で考え、主体的に学び、判断し、自ら率先して行動できる生徒 2 心身共に健康で何事にも前向きに取り組み、輝いている生徒 3 豊かな情操をもち、表現力豊かで社会性のある生徒 目指す教師像 1 共に力を出し合う教師(共育) 2 共に汗を流す教師(協働) 3 自らを高める教師(研鑽)
	心身共に健康で礼儀正しい中学生（礼儀）	
	規律と責任を重んじ、よく働く中学生（責任）	
前年度までの本校の現状	成果 学力の向上を目指して校内研修や教科部会、教員間のOJTを充実させ、指導内容や指導方法、評価の仕方等を共有し合い、授業力向上に努めた。教員一人ひとりが自己研鑽に努め、互いに切磋琢磨しつつ、課題の解決に取り組んだ。また学習・補習教室を充実させ、家庭学習の習慣化を図った。学校行事では生徒の主体性を尊重し、自己肯定感を育む教育活動を実践した。部活動では顧問の粘り強い指導をとおして、技能の向上だけでなく、個に応じた指導を行い、体力の向上や心身共に健全な生徒の育成に取り組んだ。	課題 学校行事や教育活動の充実、人権教育や特別支援教育、道徳授業の工夫や研修の実践、ICT機器の効果的な活用、3観点の評価・評定の方法を中心に校内研修を行い、教育活動のさらなる充実と教職員の資質向上を図った。それぞれの分野で効果の検証と、課題の明確化、その改善に向けて継続して行っているが、どの活動も生徒・教職員またはPTA活動等に負担を生じている機会が多くあり、両立して行っていくことの難しさが課題に挙げられる。よい伝統は継承しつつ、行事や活動の精選や効率化により、生徒が学力向上や主体的に取り組める環境を構築していく。

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己(学校)評価(A~D)		「中間」学校関係者評価(A~D)		「年度末」自己(学校)評価(A~D)		「年度末」学校関係者評価(A~D)		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や指導の充実と授業力の向上、補習の充実</li> <li>一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査や単元別・到達度テストの結果から、授業の工夫、放課後補習教室の外部機関との連携、長期休業中の補習等による基礎学力の定着や学力向上を図る。</li> <li>ICTに関する校内研修を実施し、また支援員や外部機関の訪問を有効活用し、ICTに関する基本的な技能の習得を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元別テスト(検定)各種コンテスト合格率80%を目指し、より一層、学力向上に向けて支援する。</li> <li>ICT機器や一人一台端末を活用した授業を定期的に行い、活用率を80%を目標とする。</li> </ul>	A		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力調査の結果や授業評価より、指導の充実、授業方法の改善を図った。各教科で計画的に単元テスト・単元別検定・コンテストを実施し、合格率80%を超え、基礎・基本的な事項について学力が定着した。</li> <li>研修主任、情報リーダーを中心にICT支援員を活用し、校内研修を行い、授業での効果的な活用方法の技能を高めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国学力調査では、平均が都よりは下回ったが、全国を上回っていたので、基礎の確実な定着や、学力の向上が図られている。</li> <li>コンテストや単元別検定試験で合格率が上がり、補習等で粘り強く取り組んでいる。</li> <li>一人一台端末の活用方法など効果が上がっているが、家庭学習、端末の活用方法についてはルール等、改善が必要である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸川区の学力調査や、単元別、総合検定も活用し、学力向上に向けて、指導の充実、授業方法の改善を図った。各教科で計画的に検定や小テスト、コンテストを実施し、基礎・基本的な学力が身に付いている。</li> <li>校内研修でICTの効果的な活用から、学力の向上につながる授業方法をテーマとして、一人一台端末の活用方法の技能を高め、生徒の活用につなげた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期休業や定期考査前の補習教室、普段の定期的なコンテストにより基礎学力が定着している。発展・応用の力も伸ばせる。なおよい。</li> <li>一人一台端末の活用方法については授業やドリル等で学習の課題で取り組んでいるが、ルールや決まりを徹底し、学校や家庭学習で効果的に活用することが大切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国や区の学力調査等で成果をあげ、「誰一人取り残さない学力向上アクションプラン」の目標を達成するよう、現状の学力を分析し、基礎・基本の徹底、思考・判断・表現力の向上を図る。</li> <li>「学力の向上」を研究のテーマとし、ICT機器の効果的な活用を実現させる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実</li> <li>授業力の向上とALTの効果的な活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>理系・文系・実技系で研究授業・研修を行い、教科間で課題を検討し、「主体的に活動する生徒の育成」にあたる。</li> <li>区のプロジェクともとに、ALTを有効に活用した授業を実施し、また小学校と連携して、英語指導の方法や内容について課題を共有し、生徒が学習しやすい環境を整える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年に3回以上の研究授業・研修会を実施し、指導・評価方法、授業観察の実施と課題の把握・改善を行う。</li> <li>ALT活用のアクティビティを毎時間取り入れ、1年間をとおして、小学校と連携して英語指導の研修を実施する。</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修会を3分野で実施し、指導・評価の方法、ICTの学力向上につながる効果的な活用方法等の研修を深め、教科部会で検討し、授業での実践につなげた。</li> <li>英語科で効果的なALTの活用を各学年で工夫し、英語で「話すこと」や表現する機会を増やした。ALTとの授業で生徒が英語で話す機会が増え、自信につながっている。後期は小学校との連携を実施予定。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や学校行事に楽しく取り組んでいるようで、授業評価も肯定的な意見が多く、学習活動に意欲的に取り組んでいる。</li> <li>スピーキングテストの取組ががんばっているようだが、準備や申込等が複雑でそれに見合った効果があるかは課題が多い。</li> <li>英語を活用しての表現することは意識が高まってきた。ALTを活用しての授業は楽しく取り組むことができています。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習週間や長期休業中の課題、日常での宿題など、良い内容のものが多い。子どもたちが粘り強くその課題に向き合っており、取り組みが大切である。</li> <li>ESAT-Jスピーキングテストが全学年で実施され、英語を活用して表現することの重要度が増してきているように感じる。ALTを活用しての授業は楽しく取り組むことができています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は家庭学習週間の定着に加えて、授業との関連性を考察し、授業、家庭学習両方の活動から、「学力向上」を達成していく。</li> <li>スピーキングテストの対策やALTの活用により、日常での英語表現力を伸ばしていく。また「学芸発表会」を中心として、「話すこと」の機会を増やしていく。</li> </ul>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書科の更なる充実</li> <li>読書を通じた探究的な学習の充実</li> <li>(よむよむワークシート、読書科ノートの活用、調べ学習による問題解決的な学習の展開、朝読書と1単位授業との関連付け、他教科との関連等)</li> <li>学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>よむよむワークシートの実践等、朝の読書科の取組を充実させ、読書をとおして探究心を養い、読み取る力を育成し、各教科や総合的な活動の時間、学校行事等と関連させ、探究活動を推進する。</li> <li>学校図書館を読書活動推進委員会や学校図書館巡回支援員と連携して整備し、授業・補習・調べ学習等で活用、また屋休み貸し出し開放を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎日10分間の朝読書の習慣化。よむよむワークシートの毎月の実施、読書科コンクールを全学年で取り組み、生徒の年間の読書量(冊数)を増加させる。探究活動によって発表する機会を年間3回以上設ける。</li> <li>学校図書館司書と連携し、月2回図書館の整備を実施。昼の図書館開放、貸し出しの環境整備を進める。</li> </ul>	B		B	<ul style="list-style-type: none"> <li>よむよむワークシートを使って読解力を向上させるなど、朝や総合学習の時間を使って、読書の習慣化を図った。今後は弁論大会・ビブリオバトル・読書科コンクールを国語科の取組と連携させ実施予定。資料収集や記録の方法、自分の意見や考えを伝える発表を工夫し、さらに表現力を高め、探求心を深めていく。</li> <li>月2回の図書支援員との定期的な連携、毎週の図書委員会での開放など、学校図書館の本の貸し出しに向けて、環境を改善したり、調べ学習や探求学習などで効果的に活用していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の時間に読書活動や、よむよむワークシートが継続して行われている。読書や本に興味をもつことが増えたが、効果があるか、読解力が高まっているかは、まだまだ見えないところがある。</li> <li>読書を家庭での生活で行うことが少ないので、総合的な学習の時間や学校行事、国語の授業等で読書活動を増やして、文章力や、読み取る力をつけ、表現する力を養ってほしい。また、学校公開でもそのような活動の様子が見れるとよい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書科コンクールを実施し、朝読書を継続して行うことで読書の習慣化や読解力を向上させた。また弁論や短歌作成など総合や行事と国語科の取組を連携させ、発表を工夫して表現力を伸ばし、探求心を深めた。</li> <li>昨年からの図書支援員との定期的な連携により、学校図書館の環境を改善し、年間をとおして本の貸し出しを実施し、また授業で調べ学習や探求学習を積極的に行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝や総合的な学習の時間を活用して、読書活動が定着している。学芸発表会等で弁論や表現する場面があり、教育活動の中で生徒が活躍している様子が増えるとうい。</li> <li>読書活動と比例して、文章力や読み取る力、考える力など読解力を身に付け、その力が他の場面で発揮できるとよい。また、読書の活動についてその内容を知れたり、家庭での読書活動につなげられるような活動があるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会活動や学年・学校行事において、読書活動と関連させる機会を増やし、生徒が屋休みの開放など、学校図書館を効果的に活用できるよう、環境を整える。また、より一層、読書科の取組を活性化させ、調べ学習や表現活動、探究活動を深めていく。</li> <li>弁論大会やビブリオバトル等、国語科や総合的な学習の時間、学年行事、進路学習とも関連させ、豊かな表現力の育成を図る。</li> </ul>

体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動意欲や基礎体力の向上に向けて体育の授業、部活動等による補助運動の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健体育科の授業で補助運動を意図的・計画的に実施する。</li> <li>部活動の活性化を図り、補助運動については、体育科と連携して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回の保健体育の授業の始めに補助運動を取り入れ体力増進を図る。</li> <li>部活動では種目に応じた体力づくりを行い、基礎体力の向上を図り、前年度より体力合計点が上回るようにする。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健体育の授業では補助運動を計画的に実施し、基礎体力を定着させた。体力テストで1、2年男女が部の平均を上回り、今後も継続していく。</li> <li>部活動では体力づくりを積極的に行い、瞬発力・柔軟性を高め、個々の運動能力に応じて指導内容を工夫・改善していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育の授業や部活動等においても運動に意欲的であり、活動も盛んに行われている。</li> <li>感染症対策が緩和され、運動等、活動する機会が増えたので、熱中症対策については徹底が必要だが、多目的室などエアコンがついてない場所やプールも野外で古い設備が多く、施設の改善が急務である。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>体力向上につながる活動を充実させ、保健体育の授業では補助運動を、工夫して計画的に実施し、体力テストの結果から、運動能力に応じて目標設定の基準や内容を改善した。</li> <li>部活動や日常の体力向上を関連させ、食育や健康管理について考えさせ、日常での体力づくりを意識させた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事や部活動等で、生徒は主体的に運動に取り組み、大会等の優秀な結果からも活動が盛んに行われている。運動会のラジオ体操は集団活動の向上につながり、大事な取り組みである。</li> <li>行事、体育授業、部活動等で補助運動を取り入れていると聞き、基礎的な体力や運動能力の向上につなげてほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年別で体力テストの結果を分析し、成長段階や習熟度別に応じた補助運動の内容を考え、工夫する。</li> <li>保健体育や運動会のラジオ体操等で運動の大切さを理解させ、生涯で健康的な生活について、考える態度を育成する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間、運動会等の学校行事における主体的な運動の実施による運動意欲の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に体力測定できる環境を整え、生徒が自主的に体力向上に取り組める環境を作る。</li> <li>学級、学年で各学校行事で目標を設定し、進捗状況を確認して集団活動を活性化させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節に応じて生徒それぞれが休み時間に運動する機会を調整して、増やしていく。</li> <li>学校行事等では、取組の初めに学級学年で達成目標を明確にして活動する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>体調管理や安全面に重点を置き、休み時間の健全な過ごし方を学活等で指導し、体力向上の意識を高め、安全に運動する環境を整えた。</li> <li>運動会の学校行事等で学級・学年で生徒会活動と連携して明確な目標を立て、その実現に向けて主体的に活動している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な体力が向上していると聞き、学校行事や部活動も活気を帯びて子どもたちは取り組んでいる。</li> <li>運動会でのラジオ体操や競技において生徒が活き活きとした様子で取り組んでいる。応援合戦も盛り上がりつつある。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>感染症防止等、健全な過ごし方を学活等で指導し、信頼関係を築いて休み時間等、安心安全に生活・運動する意識を高めた。</li> <li>運動会・球技大会等の学校、学年行事で、目標を明確にして設定し、同じ方向を向いて集団生活が円滑に行われた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動できる環境は、どの活動も活発に行われているが、施設の老朽化等もあり安全に行われるか、不安な点もある。</li> <li>学校公開が実施される機会も増え、生徒が活発に活動する機会を見ることができ、運動や体力づくりに力を入れていることが感じられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常での運動や体力向上を意識させ、体力テストの老朽化等もあり安全に行われるか、不安な点もある。</li> <li>学級、学年、学校全体で行事の意義や集団生活の向上を目標にし、主体性やリーダーとしての資質や能力を高める。</li> </ul>
実現に向けた教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内委員会の活性化や組織体制の構築を図ることなどによる指導・支援の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育コーディネーターや専門員を中心に、巡回指導教員及び巡回指導心理士との連携を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内委員会を月1回以上開催し、巡回指導教員と情報共有を図る。巡回指導心理士からの助言を特別支援教育に生かす。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回の校内委員会で情報交換を行い、特別支援教室の生徒の現状や課題を共有し、心理士から個々の特性、集団生活の合理的配慮等、有効な助言を受け、個別の指導を充実させた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回指導教員や専門員と定期的に相談することができる。</li> <li>週1回の特別支援教室の指導で、他者との関わりについて学んだり、集団生活での大事なことを理解することで、生活が少しずつ良くなっている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内委員会を定期的に開催し、特別支援・配慮が必要な生徒の生活状況を確認して課題解決を行い、心理士から個々の特性、合理的配慮等、有効な助言を受け、個別の指導や特別支援育への理解を深めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教室の指導で、巡回指導により、集団生活での大事なことを理解したり、他者とのコミュニケーションスキルが身に付いている。また特別配慮が必要な生徒に対して組織や体制が構築されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援専門員や巡回指導教員・巡回心理士から上がってくる情報をコーディネーターが全体に付いている。また特別配慮が必要な生徒に対して組織や体制が構築されている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインや特別支援の視点を取り入れた個に応じた指導の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や特別活動での提示の方法や教室環境を工夫し、一人一台端末の効果的な活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒理解や特別支援生徒への対応、学級経営等の研修を学期に1回実施。また外部講師を年に1回派遣し、研修する。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>1学期、外部講師を招聘して研修を実施。人権教育や特別支援教育の研修をとおして人権尊重の精神や不適切な指導の根絶への理解を深め、指導力の向上を実現した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一台端末を活用して、teams等で連絡や課題提示を再度行うことでわかりやすくなり、理解できるようになる。効果的な活用について研修を深めていくとよい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユニバーサルデザインや発達段階における特性等について外部講師を招聘して研修を実施。人権教育の理解、適切な指導方法、指導力の向上を実現し、その後の活動に活かした。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教室やコーディネーター面談を行い、現状の課題や行事、集団生活で大切なこと、進路について相談する機会があり、卒業後の目標・手立てについて考えることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>QUやUDの活用、合理的配慮など、特別支援教育について研修を行い、特別配慮が必要な生徒への対応について、指導力の向上を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンカレッジルームの活用促進</li> <li>副籍交流及び共同学習の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教室における環境整備と調整、不登校生徒への支援。</li> <li>学校便り、学年通信等の送付。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回指導教員との月1回の使用状況の確認。週1回の巡回指導の実態の把握。</li> <li>学期に1回学校便り、学年通信の送付。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回指導教員、特別支援専門員と月1回、エンカレッジルーム、活用方法を確認。別室指導支援員とも連携し、不登校生徒への対応を実践している。</li> <li>副籍制度の交流学校に学校便り・学年通信送付。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>別室指導支援員との連携や過ごしやすい環境を構築している。エンカレッジルームやSC教室を効果的に活用している。</li> <li>学習や生活する場が提供され、学年が変わって、集団で生活できる生徒がいるのはよい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>巡回指導教員、特別支援専門員と定期的にエンカレッジルーム、SC教室の活用方法を確認。教員と巡回指導教員が同じ目標で生徒指導、対応できるよう、校内委員会から教員への情報共有を円滑に行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>エンカレッジルームやSC教室での過ごしやすい環境が作られ、不登校生徒に対する、学習や生活する場が提供されている。校内別室、学校サポート教室の生活について相談し、学習機会を確保することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は活動の場所や教室の確保が重要であり、エンカレッジルームやSC教室の活用の調整をし、環境を整備し、校内別室指導を充実させる。</li> </ul>
不登校・いじめ対応の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの健全育成に向けた取組として、いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級運営やいじめ対策等の校内研修や、Hyper-QUの結果を活用して生徒の主体性を活かした学校行事や学級組織作りを実施する。</li> <li>不登校担当巡回教員を活用し、生徒の状況を把握し研修を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>月1回以上、学年会議を行い、学校行事や学級運営の内容を検討する。</li> <li>年に2回Hyper-QUを実施し、結果や傾向を活動や指導に活かしていく。</li> <li>不登校担当巡回教員を活用した研修を年間1回実施。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年会議を月1回以上、運営委員会を週1回行い、行事、学級経営・集団活動の工夫・改善を随時実施。情報を共有し組織的に課題に対応している。</li> <li>1学期Hyper-QUを実施し、夏季休業明けに傾向や対応策の分析を行った。また不登校担当巡回教員との研修で要支援や不登校生徒の対応を確認した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ撲滅宣言をはじめとして生徒が主体となって、よりよい人間関係や学校生活について考え、行事に意欲的に楽しく取り組んでいる。</li> <li>夏休みには教員との三者面談、1年生はSCと全員面談する機会があり、子どもの発達段階での相談できる環境が構築できている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営委員会・不登校・いじめ防止対策委員会を週1回、学年会議を月1回以上行い、学級経営・集団活動の工夫・改善を随時実施。情報を共有し組織的に課題に対応している。</li> <li>Hyper-QUを2回実施し、傾向や1,2回目の変容、対応策の分析、要支援の対応を検討し、エンカウンター等の集団生活の向上を目的として研修を実施。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会を中心として、「いじめ撲滅宣言」を掲げ、いじめは決して許されない行為であることを意識している。</li> <li>道徳や総合的な学習の時間を使って、「友情・信頼」や「よりよい関係の構築」で大切なことなど指導していると聞くので、その様子について積極的に公開して、保護者と学校とで考えられると、なお良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営委員会・学年会議を定期的に開催する中で、臨時に上がる課題や問題について迅速に対応できるようにし、方策を主幹・主任会議で検討し、学校行事・学級経営・教育活動が円滑に行われるよう、工夫していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>SC・SSW（チルドレン・サポートチーム）・巡回指導心理士や生活指導連絡協議会の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談部会等により、不登校対応の課題や手立てを検討し、関係諸機関との連携を強化する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校や問題傾向の生徒には月1回、SSW・SC(チルドレンサポートチーム)との連携を図り、不登校や問題の長期化を防ぐ。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援や配慮が必要な生徒や不登校生徒に関して月2回、教育相談をとおしてSSW・SCとの連携を図り、家庭と学校との連携を円滑に行った。児童相談所等、外部機関とも相談していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールソーシャルワーカーやカウンセラーと教員以外で相談できる人がいるのはよい。</li> <li>地域の人材や外部の教育相談機関と連携し、より一層、効果的な支援方法を考察し、不登校生徒を減らしていけるとよい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活アンケート等で生徒個々の特性を分析し、特別配慮が必要な生徒や不登校生徒に関して最善な対応を検討した。またSSW・SC、児童相談所等の外部機関と連携を図り、家庭・生徒への支援を行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、児童相談所、民生児童委員等、地域の人材や外部の教育相談機関と積極的に連携し、より一層効果的な支援方法を考察し、不登校生徒を減らしていけるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校対応巡回教員やスクールソーシャルワーカー（SSW）のよりよい活用方法を共有し、学校サポート教室等の外部機関との連携をより一層深めていく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自校の取組の積極的な発信として、学校ホームページの充実等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業日においては、教育活動・各学校行事・学校生活の様子・給食献立等情報を発信する。また連絡アプリ等で緊急連絡を行い、早期に情報を周知する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教育活動において学校HPを配信・更新し、授業日の日数と同等の数の学校日記の配信を行う。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業日の活動においては、学校行事や様々な教育活動、学校日記、毎日の給食の献立等を配信し、学校生活の様子について、情報を公開した。配布物や重要なお知らせ、緊急連絡については、teturuと併用して配信していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校HPで学校行事や学校日記、給食活動等について配信している。さらに様々な活動について紹介されるとよい。</li> <li>欠席連絡がアプリでしやすくなった。緊急連絡や重要なお知らせについてはteturuで確認できるとよい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度から「弁当の日」を実施し、家庭、保護者と食育に関して考えるなど、様々な教育活動を公開し、学校生活の様子について、情報を公開した。重要なお知らせについては、教育活動はteturuでPTA活動はアプリで併用して配信していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校HPやteturuの配信に加え、PTA活動について「がくぶりアプリ」で情報を公開し、また学期の定例の保護者会や宿泊行事の保護者会で、教育活動や学校活動の内容が情報発信されている。お知らせ等は電子配信が増えていくとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育、学習活動では、一人一台端末を、地域・保護者への配信は学校HP、teturuを有効活用し、学校での保護者会、説明会、配信での公開など必要性に合わせて、公開方法を工夫する。</li> </ul>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学校(園)の開かれた地域社会の実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開、保護者会、説明会等の実施・充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土曜授業の授業公開や学校行事の公開を行い、それぞれの行事・教育活動について積極的に学校の状況を伝える。</li> <li>公開する教育活動については、地域・保護者がともに参加する機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間4回の土曜授業は授業公開を実施。</li> <li>毎学期の保護者会や説明会、道徳授業地区公開講座等も集合での実施を行い、交流・情報発信する機会を増やす。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校(授業)公開、運動会をはじめとした学校行事で、教育活動や生徒の様子について地域・保護者に学校の情報を伝えられた。</li> <li>定期的保護者会や三者面談、進路説明会で教育活動や学校・生徒の実態を情報発信している。道徳授業公開講座では保護者と一緒に入権尊重や健全な子どもの育成について考えた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍による規制が緩められ、運動会をはじめとした学校行事や学校公開(授業公開)等の活動も積極的に参加でき、子どもたちの様子、各伝統行事を参観できた。</li> <li>学期の定例の保護者会や進路・宿泊行事の説明会、三者面談等で学校の活動について。聞く機会が確保されている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎学期、学校(授業)公開を行い、生徒や学校行事の様子について地域・保護者に学校の情報を伝えた。</li> <li>道徳授業地区公開講座や学校保健・給食運営委員会、それぞれの行事に関する保護者会を開催し、特別支援や配慮できることや、個々の相談について対応した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や授業公開等の活動も積極的に公開して、子どもたちが活躍している様子がみられる機会が多いが、運動会等で観覧の場所の人数が多く、十分に観賞できないのが課題である。</li> <li>学校保健給食運営委員会、給食試食会で普段の子どもの給食の様子や、健康管理について聞くことができるとても有意義な時間であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校公開・行事についてはそれぞれ特色のある教育活動が実践されていることを、明確にかつ多くの地域・保護者に公開できるようにしていく。</li> <li>行事やPTA活動にご協力いただけるよう、学校応援団とも連携して実施方法を工夫していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・充実・改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域・保護者に対して教育活動に関する学校評価、生徒に対して各教科の授業評価を実施する。</li> <li>学校評議員会、PTA運営委員会等を実施し、教職員と地域・家庭が教育活動について、意見・課題を共有し、連携する機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の中で、生徒・教職員・地域・保護者に対して学校評価を実施し、教員が授業や行事等の教育活動について、検討・改善を行い、研修・会議等で周知する。</li> <li>学校評議員会を年に2回、PTA運営委員会を年に3回実施し、教員と意見交換する機会をもつ。</li> </ul>	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期生徒学校評価を実施し、肯定的な回答が90%以上。生徒の実態を把握し、それをもとにして授業改善を行った。学校行事に関しては、教員の評価で振り返りを行い、内容の精選、業務軽減を行い、後期、来年度につなげていく。</li> <li>学校評議員会を2回、PTA運営委員会を1回開催し、教育活動が円滑に行われているか確認。周年事業後で、地域との連携が円滑に行われ、地域に根差した学校づくりが進んでいる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事がコロナを機に変革されているので、保護者やPTAの意見も積極的に取り入れ、一体となって学校の行事に協力できるとよい。</li> <li>放課後補習教室や長期休業中の学習教室等、確かな学力の定着に向けて取り組んでいる。</li> <li>PTA運営委員会や学校評議員会、保護者・地域が運営に積極的に参加し、地域の奉仕活動や祭礼行事に子どもたちと参加する機会が増えている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>年に2回、生徒学校評価(授業評価)を実施し、生徒の満足度・理解度も90%以上であった。生徒の実態や授業・学習の課題を把握し、授業改善を行った。学校行事は、練習や準備の内容の精選を行い、来年度の計画を立てていく。</li> <li>昨年度の周年行事での地域との連携を継続さらに発展するよう、学校評議員会、PTA運営委員会等で、教育活動が円滑に行われているか確認し、地域に根差した教育活動を実現した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍が明けて、学校行事や教育活動、PTA活動について、よりよいものになるよう検討し、地域・保護者と一体となって学校の行事に協力できるとよい。保護者やPTA活動の内容については、変革・改善していく。</li> <li>PTA運営委員会や学校評議員会、学校保健給食運営委員会等で教職員・保護者・地域が意見交換することが増えた。学校の子どもや取組の様子について意見交換することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力向上と学校の教育活動の充実のため、生徒授業アンケートや、地域・保護者対象の学校評価を効果的に活用して、よりよいものになるよう、実行委員会や分掌部会で検討し、改善していく。</li> <li>PTA運営委員会、学校評議員会・地域の方々と意見交換を定期的に行い、各教育活動が成功するよう計画する。</li> </ul>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校としての働き方改革の目標を設定し、教育活動の精選や、スクールサポートスタッフ、副校長補佐、部活動外部指導員等、学校経営支援を担う人材を積極的に活用し、業務の軽減を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷・配布作業、集計・採点業務・行事の補助等、依頼しやすい環境を整え、業務を教員から学校経営支援を担う人材に毎日1回以上、依頼する機会を作る。</li> <li>各学校行事の反省、評価から課題を把握し、解決策を学期や年度末に検討する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールサポートスタッフや部活動外部指導員、別室指導支援員等、学校経営支援を担う人材を引き続き活用して、昨年度よりさらに業務を精選し、生徒対応に時間が費やせるようになった。</li> <li>今後は校内や職員室内のICT環境を整備し、仕事が効率よく進むようにして、業務を分担化し、勤務時間短縮が少しずつ実現されるようにしていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動の地域移行による外部指導員の充実や適切な指導力の向上が望まれる。</li> <li>学校の教育活動同様に、PTA活動において業務の効率化を図り、ICT機器やオンラインでの実施や活動の精選を行い、負担を削減し、その中で子どもたちの教育活動に、前向きに協力していく必要がある。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>スクールサポートスタッフや校内別室指導支援員、事務補助など、学校経営支援を担う人材を効果的に活用して、業務を精選し、生徒対応や授業準備等に時間を確保することができた。</li> <li>校内や職員室内のICT環境を支援員や情報教育リーダーを中心に整備し、仕事が効率よく進むようになり、業務の分担化、勤務時間短縮が少しずつ実践されている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>PTAの委員会活動など業務の取捨選択を検討し、効率化を図り、ICT機器やオンラインでの実施や活動の精選を行った。来年度はPTA活動の取組を見直すため、負担のかからないようにしつつ、その中で子どもたちの教育活動にも積極的に協力できるようにしていけるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校支援を担う人材の効果的な活用に関して、業務分担を工夫し、他の学校の良い実践方法を取り入れ、働きやすい環境を作るよう、工夫・改善していく。</li> <li>校内の勤務環境やICT環境を整備し、役割分担を明確にし、仕事のより一層の効率化を図る。</li> </ul>